

## 【別紙 1 - 7】

### 明石公園遺跡調査について

1 調査主体 兵庫県教育委員会（兵庫県考古博物館）

2 調査期間 令和 2 年 8 月 24～27 日、9 月 1～4 日（実働 8 日間）

3 調査面積 80 m<sup>2</sup>

4 調査の種類 確認調査

球技場（自転車競技場）、千畳芝、陸上競技場の3地区にトレンチを設定し、平爪のバックホーならびに人力により掘削し、土層の堆積状況と遺構・遺物の有無を確認した。

5 調査内容

明石公園のリノベーション事業を検討するに際し、事業対象地である明石公園は史跡明石城と埋蔵文化財包蔵地明石公園遺跡を共に含むため、明石公園遺跡の史跡に隣接する3箇所を確認調査を実施した。なお、掘削箇所の制限が遺構面の有無を主眼として調査を実施した。

6 調査の結果

球技場（自転車競技場）地区

絵図では堀が存在する箇所に当たる。2×5m のトレンチを 2 箇所設定した。1T・2T とも競技場造成に伴う盛土が約 30cm 検出され、その下ににぶい黄褐色細砂層が存在する。この層の上面が遺構面で、不整形の土坑や柱穴状の遺構が検出された。遺構の埋土は褐灰色細砂で、瓦片が出土した。

千畳芝地区

埋没した谷が存在することが予想された地区である。谷に直行するように 2×5m のトレンチを東西に 2 箇所設定した。1T・2T とも、芝生広場造成のための土の下には礫を含む砂を主体とする堆積層が複数存在している。わずかな土師器片が出土したものの、遺構は検出されておらず、現在の剛ノ池に関連する谷が埋まっているものと考えられる。

陸上競技場地区

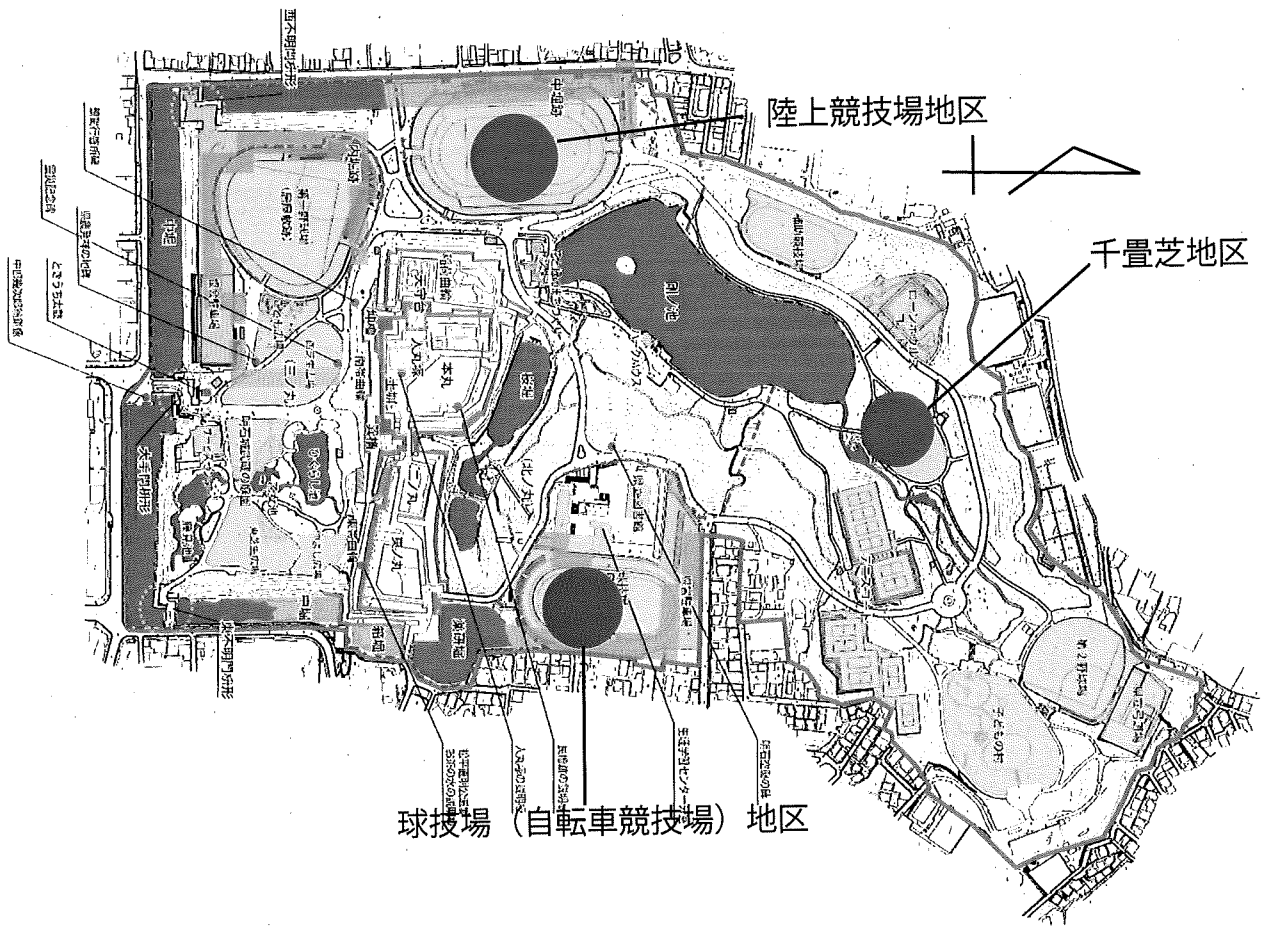
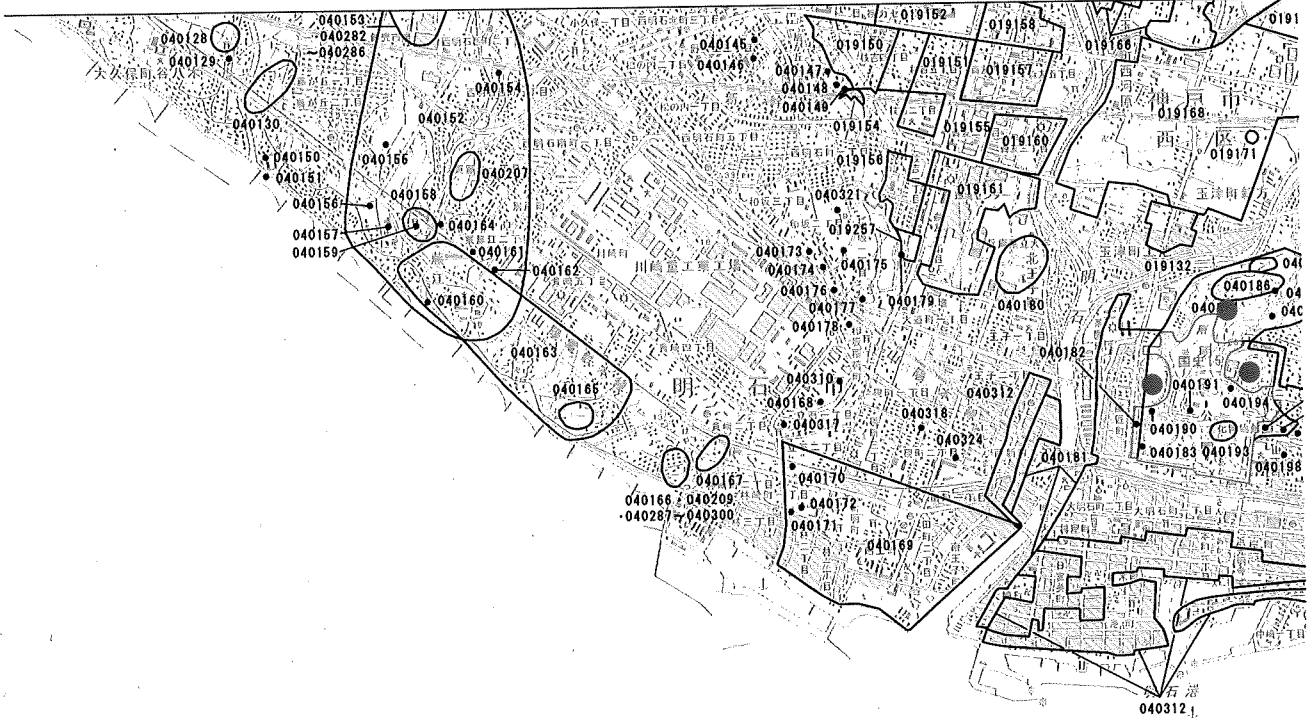
絵図によれば、庭園があった地区となる。2×5m のトレンチを 4 箇所設定した。各トレンチとも、上部に 50 cm 弱のグラウンド造成に伴う盛土が認められる。1T では粘性の強い黄灰色極細砂～シルトが東に向かって落ち込んでおり、池の埋土ではないかと考えられる。2T でも 1T で池の埋土ではないかとした堆積が続いている。3T と 4T では造成土の直下で、柱穴や溝状の遺構が検出されている。

7 まとめ

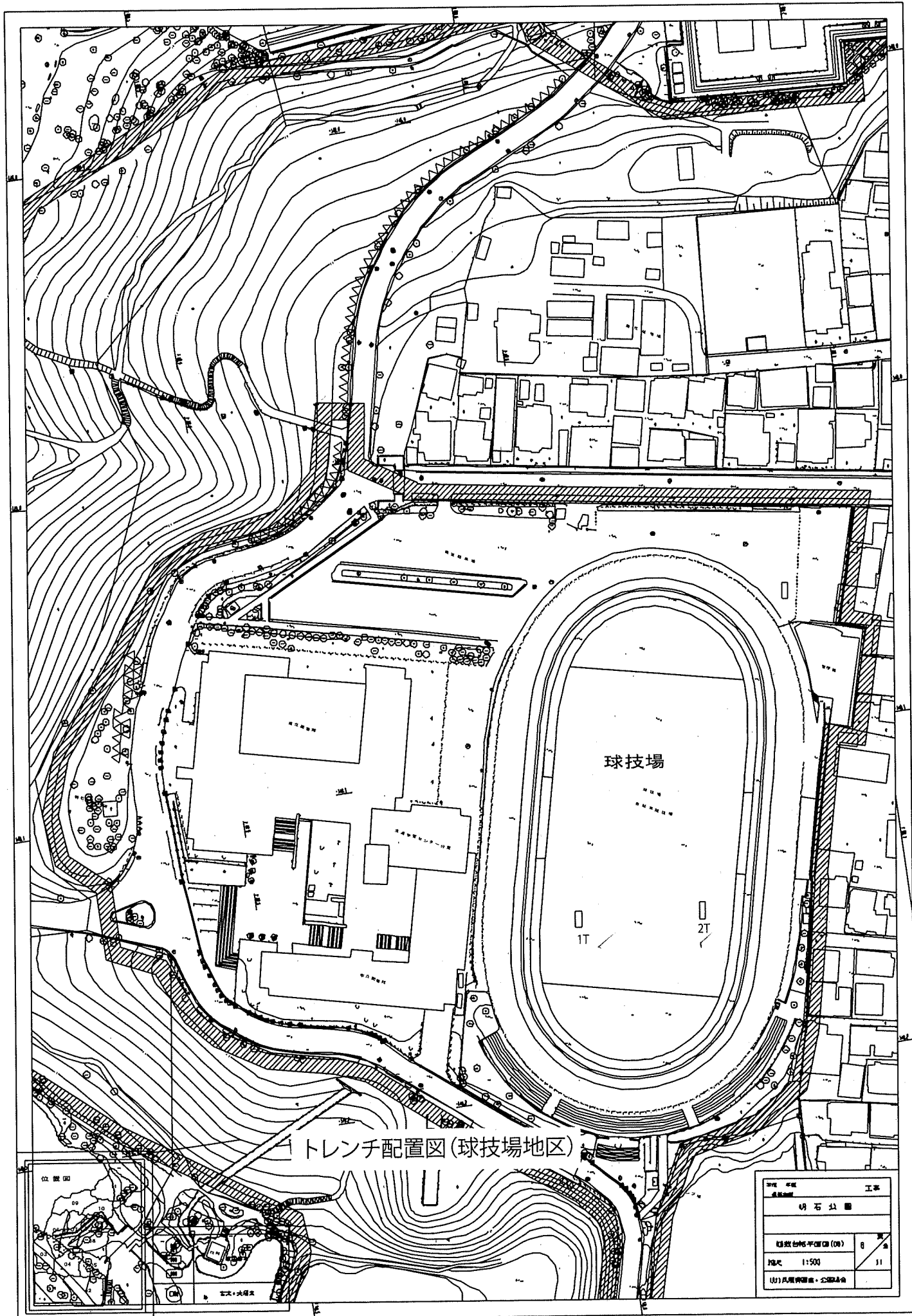
球技場（自転車競技場）地区と陸上競技場地区では江戸時代に遡ると考えられる遺構面を検出することができた。トレンチ設定の制約から前者では薬研堀を検出することは出来なかった。ただ、後者では 1T で池を埋めた可能性のある堆積層があり、他のトレンチにおいても近世と考えられる遺構が見ついている。遺構面が確認されたことから、この両地区については、江戸時代の遺構が残存している可能性が高い。

これに対して、千畳芝地区においては、河川由来の砂礫層を主体とした堆積が認められ、遺構も見つかっていないことから、剛ノ池に向かう谷にあたり、江戸時代のものも含め、埋蔵文化財が存在する可能性は低い。

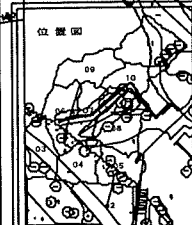
位置図 (S=1/35,000) 兵庫県遺跡地図 (図幅名: 明石)



調査地点図 (任意スケール)

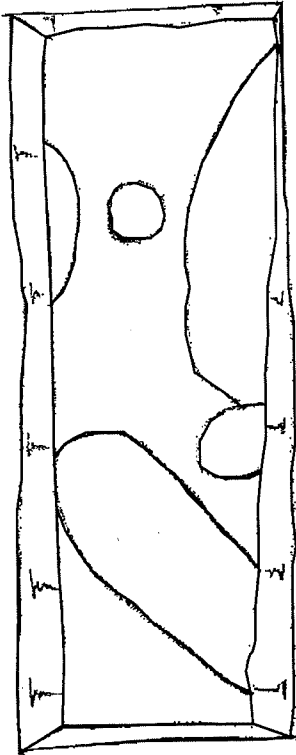


トレンチ配置図(球技場地区)



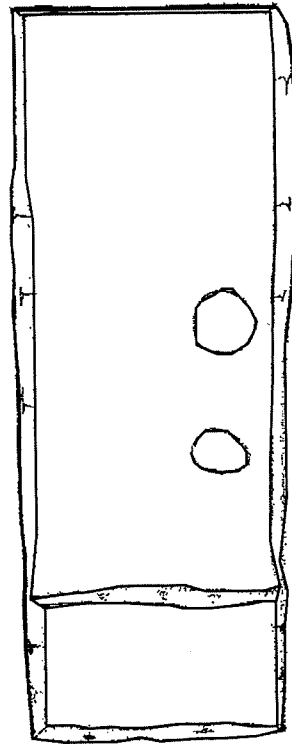
工程	工事
明石公園	
建設台帳平簿(冊)	8
縮尺	1:500
(社) 凡用務部 企画課	

1T  
北

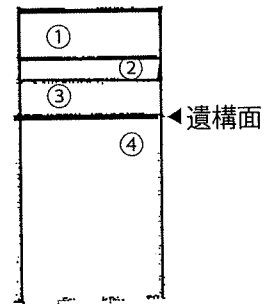
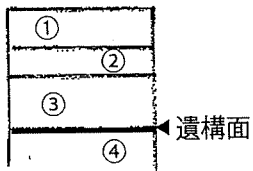


南

2T  
北



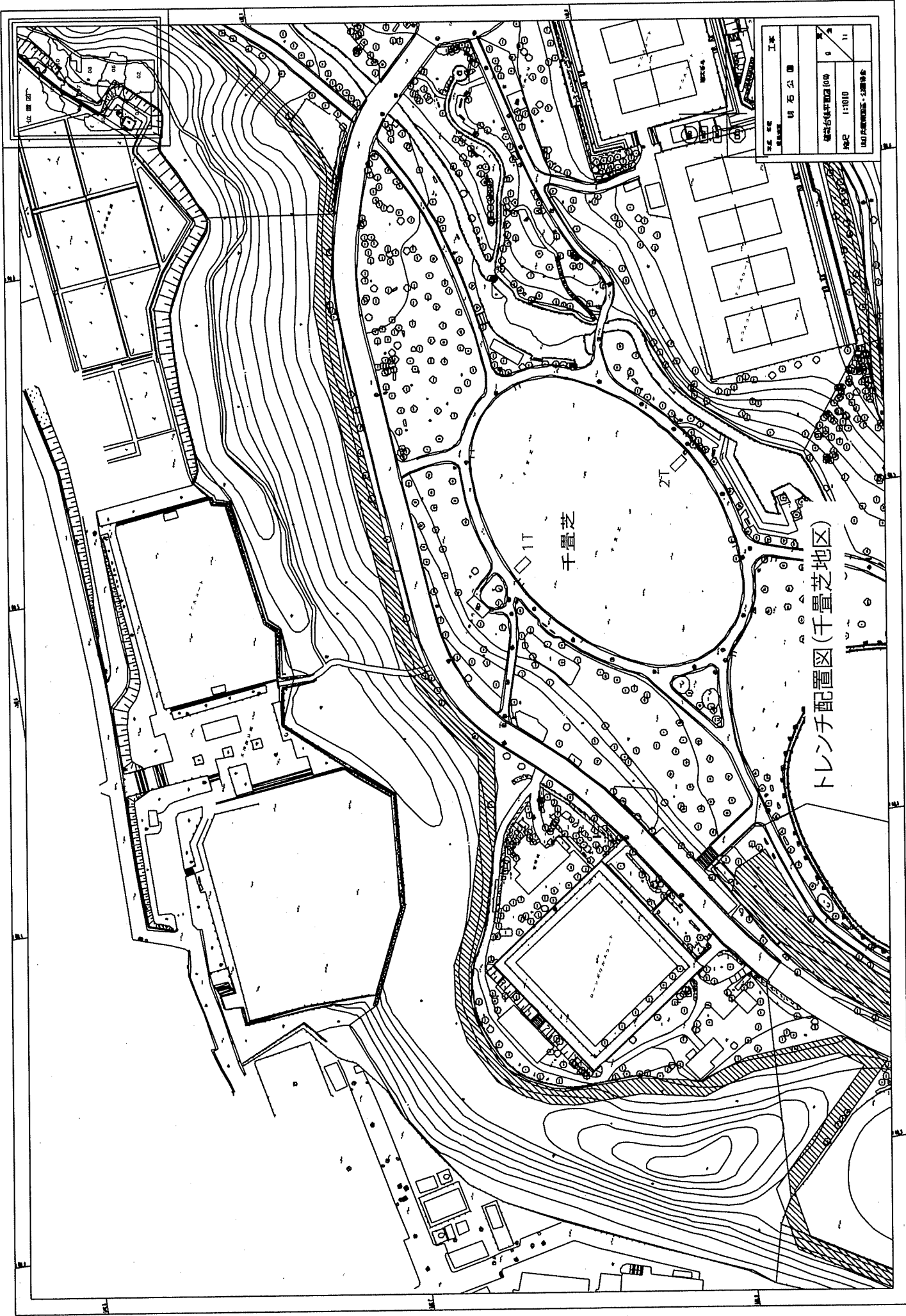
南



- 1T・2T共通
- ① にぶい黄褐色 粗砂混じり極細砂
  - ② 灰白色 粗砂・細砂混じり小礫
  - ③ 明黄灰色 粗砂・小礫混じり細砂
  - ④ にぶい黄橙色 礫を含む細砂

### 球技場(自転車競技場)地区

平面図(S=1/50) 断面柱状図(S=1/20)



工事	公園
名称	白石公園
縮尺	1:1000
縮尺	1:1000
縮尺	1:1000

トレンチ配置図 (千畳芝地区)

千畳芝



























